

農地中間管理事業に対する担い手の声

「今治市 農業法人(果樹)の意見」 H29.7.24

もともとは温州みかんの生産農家だったのですが、昭和47年の価格暴落を受けて自らも販売しようと会社を興しました。現在、自社農場は5haありますが、技術者2名とアルバイト1名が栽培を担当していて、県内の委託農家の生産指導もしています。販売面では、自社生産だけでは量が足りないなので、委託農家や地方市場を利用して集荷し、年間6千トンほどを扱っています。

最近実感するのは、生産者が高齢化して農業を止めていき、市場に温州みかんが無くなっていること。時代の流れに逆らえないものの、最大の問題です。だからといって自社生産を増やすには人件費がかかりすぎて困難です。地方市場には、収穫が遅れて集荷時期に間に合わなかったものや、庭先選果でハネられたものも出てきます。スーパーは値ごろ感のある商品が欲しいため、糖度は10度以上あれば少々のもは構いません。だから良い品は産直やネット販売に回しますが、スーパーには二番手、三番手の品を卸し、一番下の4級品は安売り用に出していて、加工品は減っています。Sサイズも2Sサイズも昔は加工用でしたが、今は全部生食用で売られています。

卸会社などへの販売促進活動は行っていません。スーパーのバイヤーが前年の売上表をもって現場に来て、対比しながら「今年はこれくらいで行くか」という風に決めています。完全な相対取引です。だから、これくらいのグレードでLサイズが500ケースいるという注文が来て、それに対応して選別し、出荷しているのです。もちろん市場は通します。代金決済の心配はいらなし、手数料も5%や少し負けて4%もあります。

会社の周辺も、ここ何年かで極端に農家が減ってきました。荷を集めようにも少なくなって、生産については深刻な問題だと思っています。